

浪江町



The Grand Design for Landscape Architecture around Namie Station



概 要 版

浪江駅周辺

グランドデザイン基本計画

2022.03

浪江町長

吉田 栄光
Eiko Yoshida



希望

浪江駅周辺を「皆さまが希望の持てる世界に誇れるような街並み」にします。
そして、そのにぎわいを町全体に波及させて、持続可能なまちづくりに取り組みます。
この計画は、皆さまが活躍する舞台づくりです。
住む、働く、訪れる、浪江町の主役は皆さまです。いっしょにまちづくりをしましょう。

建築家

隈 研吾
Kengo Kuma

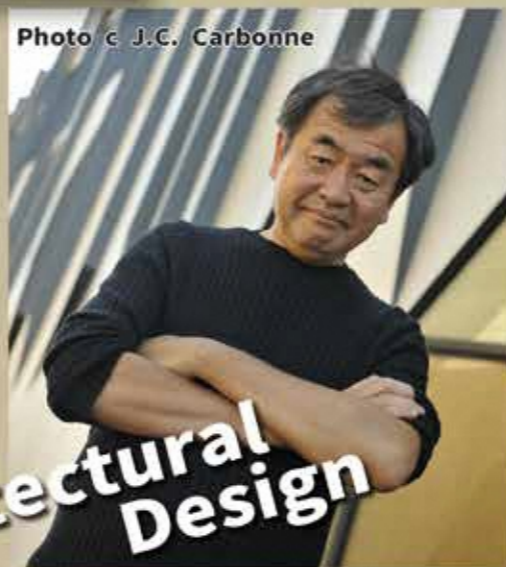


Photo © J.C. Carbonne

Architectural Design

駅から始まり、その周辺の交流・商業施設や共同住宅までを総合的にデザインできるのは世界的に見ても貴重なチャンスです。
浪江町の自然や文化と共にこのチャンスを活かし、人々がひとつの大きな屋根でつながり、そして世界に発信していくような街をつくっていきます。

はじめに

Preface

この計画は、令和3年3月に策定した「浪江駅周辺整備計画」に基づいて整備を行う建物や街並みのデザインを定めたものです。
「浪江駅周辺整備計画」の計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間で。

※本計画書に示した図面、イメージパース等は、令和4年3月時点のデザイン案です。

目次

Table of Contents

第1章
人のつながり



デザインコンセプト	4
平面計画	6
「なみえルーフ」	8
展望テラス	10
東西自由通路・ 交通結束広場	11

第2章
エネルギーと
環境のつながり



デザインコンセプト	12
木材活用	12
再生可能エネルギー	14
水素ステーション	15

第3章
自然と文化
のつながり



デザインコンセプト	16
緑空間ゾーニング	16
植栽計画	18

(資料) 駅周辺整備計画 スケジュール案	19
----------------------------	----

プロジェクトプランナー
元東京芸術大学特任教授

伊東 順二
Junji Ito



City Planning

11年前、防護服を着てなんとかかかつての町の姿を映像に残そうと誰もいない街を巡った時は、今このように復興に関われるとは想像もしていませんでしたが、いつかこの記録で貢献したいと強く思っていました。

当時の駅周辺が新しいデザインに生まれ変わることは素晴らしいことで、そこに残っていた思い出をぜひ形にしたいと思っています。

住友商事株式会社
執行役員 EII SBU長

北島 誠二
Seiji Kitajima



Renewable Energy Innovations

浪江町の皆さんと共に、あたらしい浪江の姿をデザインしていく貴重な機会を頂きました。
水素や再生可能エネルギーをエリア環境と調和させながら、新たなチャレンジの場を創出し、浪江町に根差した新しいライフスタイルを世界に発信できるまちづくりに貢献していきます。

「なみえルーフ」が生み出す、人のつながり

駅から商業施設まで、ひと続きにつながる**アップダウンのあるダイナミックな大屋根が町ににぎわいを生み出します**。これまで住んでいた方も、そしてこれから住んでみたい方も、大屋根「なみえルーフ」に集まり、人と人のつながりをつくれます。

様々なイベントを行うことのできる芝生広場のまわりと、交通機能が集まる東西のロータリーを囲うように連続する屋根が架かり、駅周辺エリア全体に一体感が生まれます。

開いた円形状の屋根は、求心力と発信力を併せ持つ、シンボリックなデザインです。



駅から新町通りまでの人の流れをつくります

大きな一つの屋根に沿った人の流れは、緑空間、そして新町通りまでつながります。それぞれの機能は分断されることなく、ゆるやかに連続します。



公営・民間住宅 (延床面積) 約 7,700 m²

2F～：住宅エリア
 1F：集会スペースと住宅エリア
 広場に面した手前の住居棟は、プライバシーに配慮して1階は集会スペースとします。周囲には木々が立ち並び、駅前にありながら落ち着いた住環境となります。



商業施設 約 2,600 m²

1F：スーパーマーケット (キーテナント)
 物品販売店舗、飲食店など
 広場を取り囲むように店舗が並びます。ガラス張りの壁が景色を取り込み、屋内にいても開放感が生まれます。店内は明るく、外からも店内のにぎわいが見えます。



交流施設 約 1,600 m²

2F：コワーキングスペース、打ち合わせブース
 1F：カフェスペース、待合スペース
 館内のコミュニティラウンジから芝生広場が一望できます。居住者や来訪者の交流の場としてお使いいただけます。



地域活性化施設 約 800 m²

2F：町の情報発信ブース
 1F：大会議室、小会議室、町の情報発信ブース
 浪江町がわかる情報発信ブースと、町民の皆様にお使いいただく集会所です。



人と町のつながりを生み出す「なみえルーフ」

駅から商業施設まで、ひと続きにつながる**アップダウンのあるダイナミックな大屋根**「なみえルーフ」が町に**にぎわいを生み出します**。展望テラスや交流施設の一部が芝生広場に張り出すことで前後にも変化が生まれ、広場にさらにダイナミックな印象を与えます。



光がつながる「なみえルーフ」

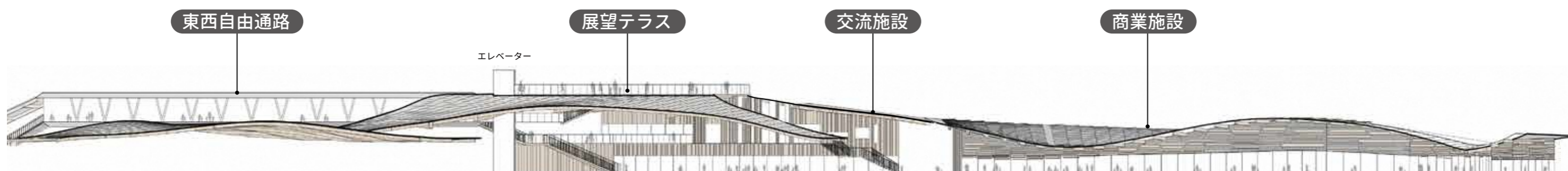
主に**間接光**を使って夜の駅前空間を**幻想的に照らし出します**。

照らされた建物外装の木製パネルと「なみえルーフ」が、**光の連続**を生み出します。ポラードには照明が内蔵され、歩行者を安全に誘導します。広場のメインツリーを下から照らして、**反射光や拡散光**により明るさを増幅します。

駅周辺は**夕暮れや夜間にも安心して立ち寄りたくなるエリア**になります。



「なみえルーフ」は人々のにぎわいを表現した曲線を描いています。芝生広場に立つとアップダウンした屋根のラインのパノラマを楽しめます。建物ごとにスリットで分節されながらも、一つの連続的な屋根としてつながります。



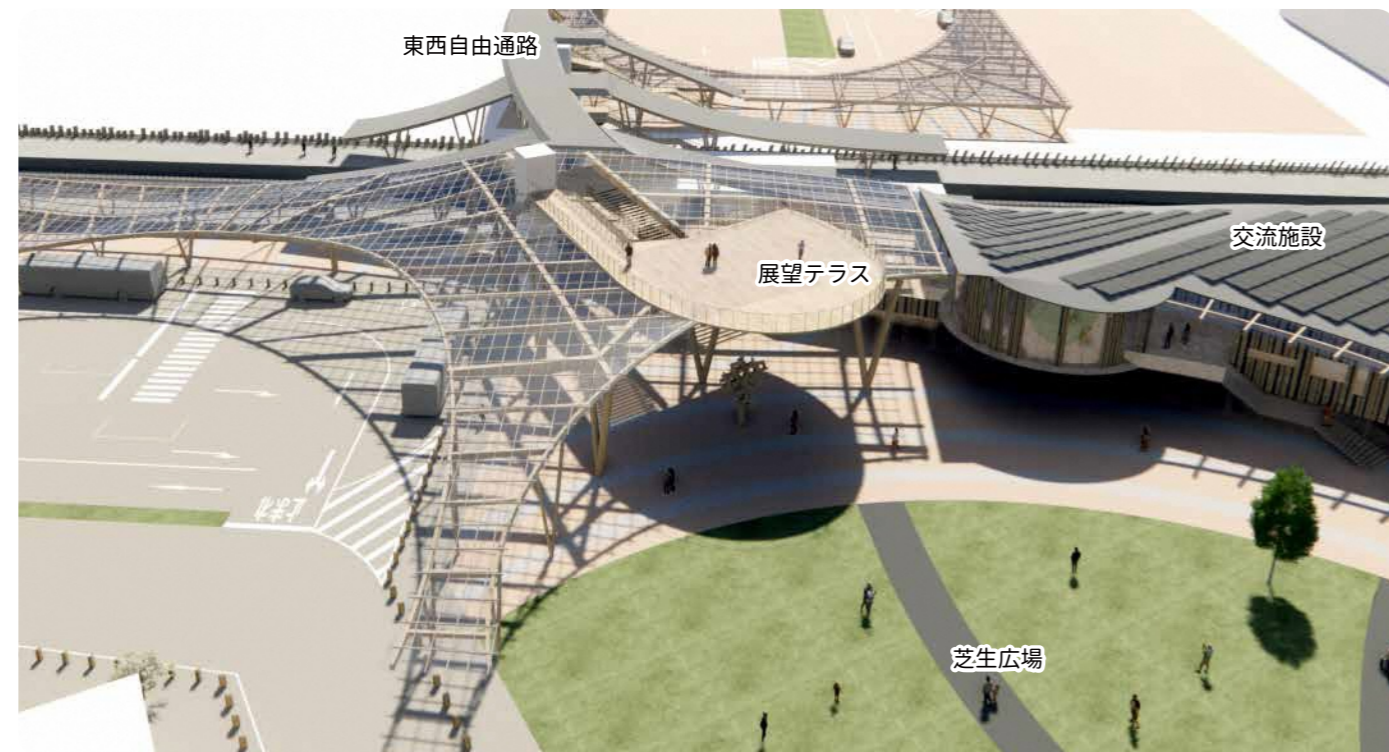
なみえルーフ展開図 S=1:500

新しい浪江を見渡せる展望テラス

初めて浪江町を訪れた方の撮影スポットになり、地元の方にとっても何度も行きたくなるような**展望テラス**を「なみえルーフ」の上につくります。

芝生広場に面した大階段や東西自由通路からアクセスしやすい位置にあります。また、地上からエレベーターで直接アクセスすることが可能です。

■ 展望テラス鳥瞰図



■ 展望テラスからの眺め

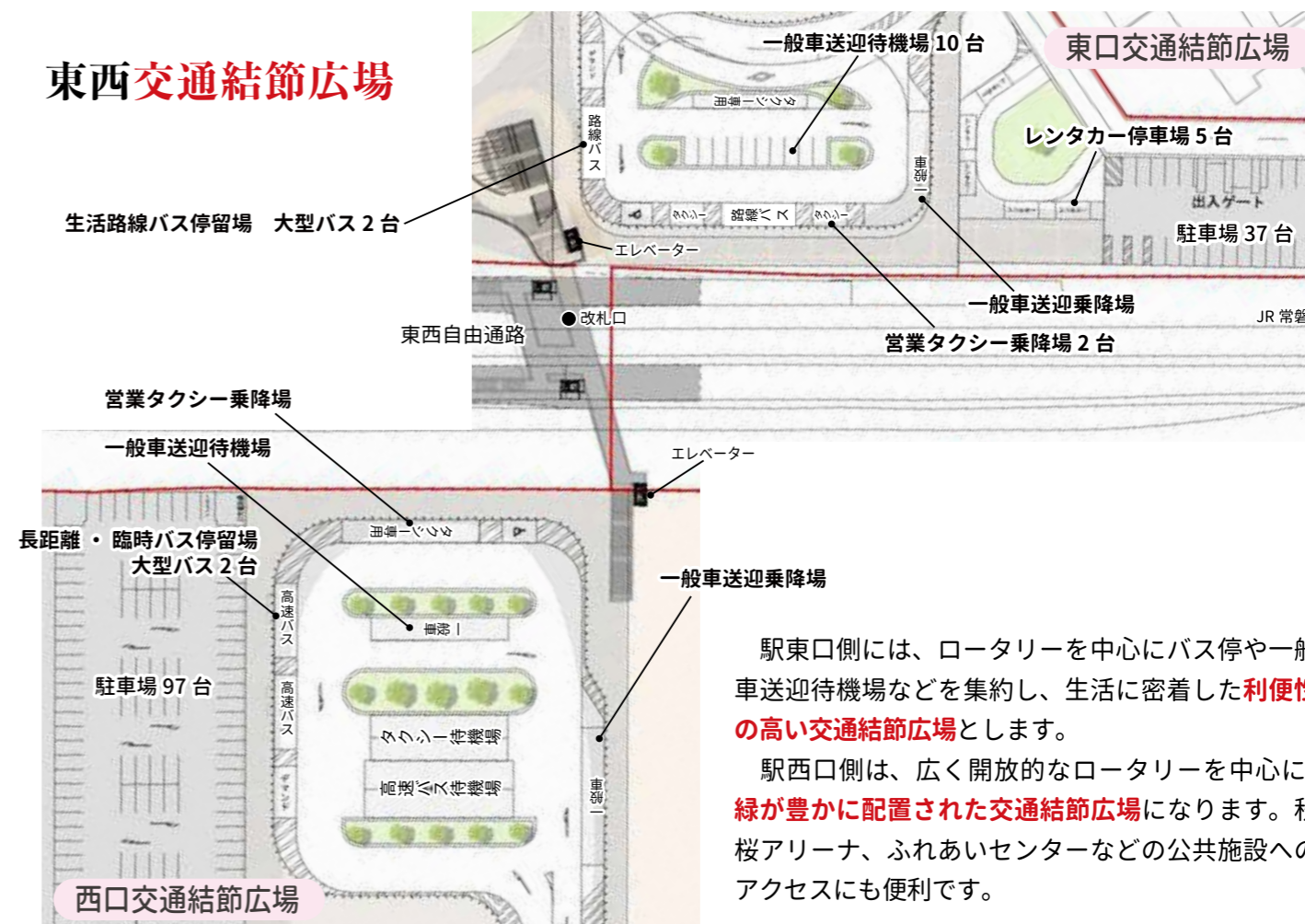


駅の東西を自由に行き来できる自由通路

改札の外側に位置する**東西自由通路**は、どなたでも利用できます。自由通路の屋根は交流施設や商業施設と同じで鋼板屋根とします。壁はガラスで眺望が良く、柱は「なみえルーフ」と統一感のあるV字型の柱とします。



東西交通結節広場



駅東口側には、ロータリーを中心にバス停や一般車送迎待機場などを集約し、生活に密着した**利便性の高い交通結節広場**とします。

駅西口側は、広く開放的なロータリーを中心に、**緑が豊かに配置された交通結節広場**になります。秋桜アリーナ、ふれあいセンターなどの公共施設へのアクセスにも便利です。

木材や再生可能エネルギーを活かした環境モデル

木材や水素、再生可能エネルギーを環境と調和させ、浪江町に根差したライフスタイルとして世界に発信できる、未来のまちづくりを進めていきます。

建物の外装と内装の両方に木材をふんだんに用いて、暖かみのある建物にするとともに、「CO₂を吸収しながら成長し、吸い込んだCO₂と共に建材として100年生き続ける」木材の特徴を生かし、環境負荷の低減にも貢献します。

また、水素ステーションを起点としたエネルギー供給により、浪江産水素（FH2R産グリーン水素^{*1}）の地産地消を実現します。加えて、屋根や壁面には、周辺環境と調和するようデザインされた太陽光発電パネルを用いて、駅前エリアにおけるRE100^{*2}のライフスタイルを実現していきます。



建物に応じた適材適所の構造体としての木材活用

■ 公営住宅・民間住宅：在来軸組工法+集成材

- 公営住宅と民間住宅の主体構造を木造とし、建物の軽量化による基礎コストの低減及び工期の短縮を図ります。なお、5階建て公営住宅は、経済合理性の観点から、最上階から数えて4階分は1時間耐火構造による木造とし、最下階をRC造とします。
- 一般製材の歩留まりを考慮し、尺寸モジュールによる在来軸組工法を採用することで躯体コストの低減を図ります。

■ 交流施設・商業施設：在来軸組工法+集成材

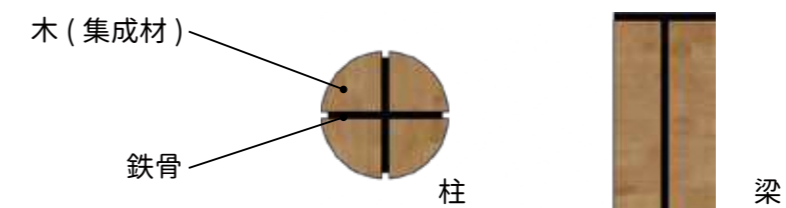
- 交流施設・商業施設は、主体構造を木造とし、建物の軽量化による基礎コストの低減及び工期の短縮を図ります。
- 燃え代設計により部分的に木部をあらわし、木質空間を創出します。
- 屋根のロングスパン部分は張弦梁とし、軽快な空間を実現します。
- 一般製材の歩留まりを考慮し、尺寸モジュールによる在来軸組工法を採用することで躯体コストの低減を図ります。必要スパンに応じて、集成材を組み合わせます。

*1：グリーン水素とは、再生可能エネルギー由来の電気で水を分解することにより生産される水素。水素は使用時にCO₂を排出しない上に、電気分解に必要な電力もクリーンなため、製造プロセスにおいてもCO₂が発生しない。

*2：RE100とは「Renewable Energy 100%」の略称で、使用電力を100%再生可能エネルギー（グリーン水素を含む）で調達することを指す。

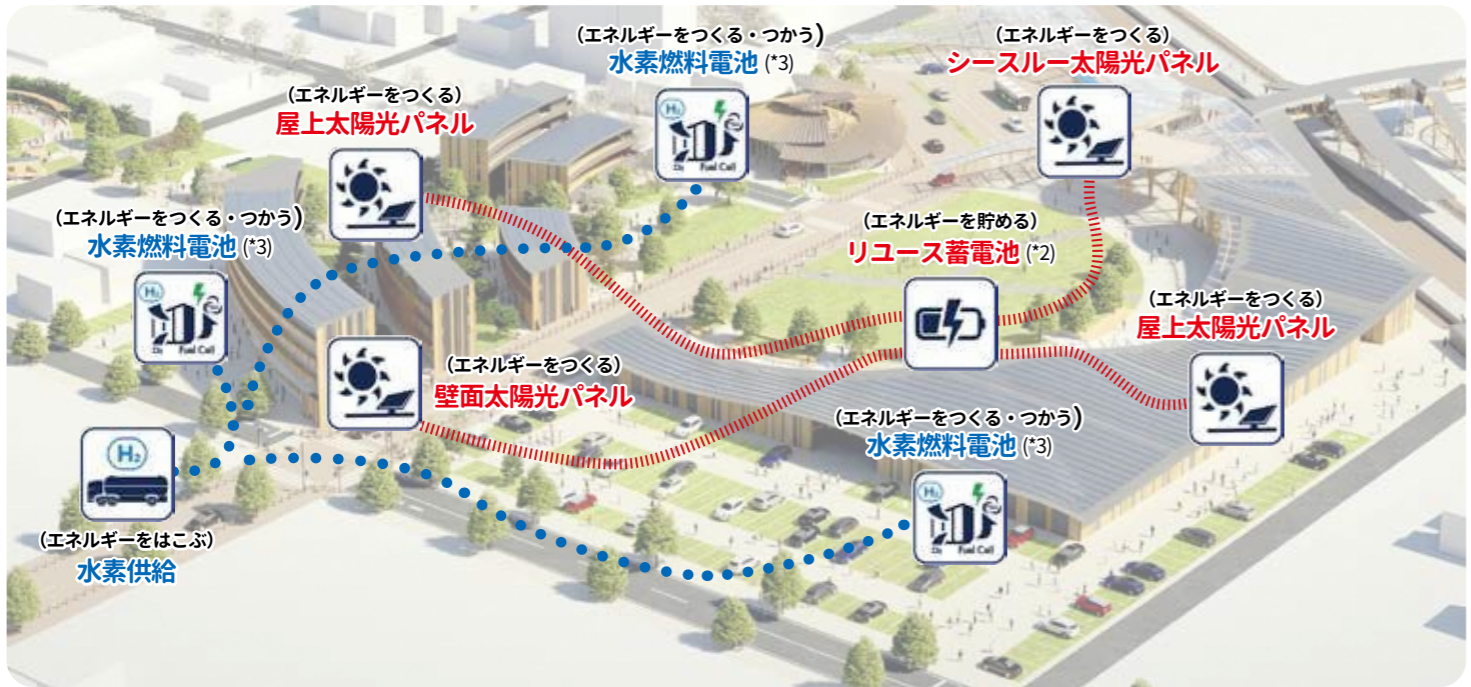
■ 「なみえルーフ」・東西自由通路：木+鉄骨のハイブリット構造

- 大屋根と自由通路のV字柱は鉄骨造とし、地震時の耐震性と変形の抑制及び耐久性に配慮します。鉄骨を木で挟んで周囲と調和のとれたデザインとします。
- 群衆荷重を支持するロングスパン梁は鉄骨を木の集成材で挟み込んだハイブリット構造を採用し、座屈補剛効果と木質空間を創出します。



エネルギーを使う町から、作り・集め・つなぐ町へ

- 私たちで使うエネルギーは、私たちが作るエネルギーを。時間帯や天候によって足りない電力は、町内の再生可能エネルギーを活用します。
- 安全安心なエネルギーを必要なときに必要なだけ。電気を集め・貯め・使う。水素やリユース蓄電池を使い、未来のライフスタイルを目指します。(*1)
- 余ったエネルギーは、近隣地域や県内外の需要地へ。エネルギーを無駄にせず、社会全体で上手に使う。浪江町が社会をエネルギーでつなぎます。



*1 次世代ライフスタイル： RE100 のライフスタイルを実現するため、水素・太陽光発電・蓄電池・省エネなど、新しい技術やサービスを持ち寄り、住まう方々や浪江町に関わる人々との対話と連携を行いながら、様々なチャレンジを進め、世界に発信していきます。

*2 リユース蓄電池： 電気自動車に搭載されるリチウムイオンバッテリー等を二次利用、蓄電池として活用し、昼間に太陽光発電パネルで発電した余剰電力を蓄え、夜間や天候が悪い日などに電力使用するもの。

*3 水素燃料電池活用： 水素燃料電池とは、水素と酸素の化学反応により発生した電気を取り出し、利用することができる装置。水素燃料電池により水素から発電した電気と、発電時に発生する熱を、家庭内や店舗内で活用するもの。

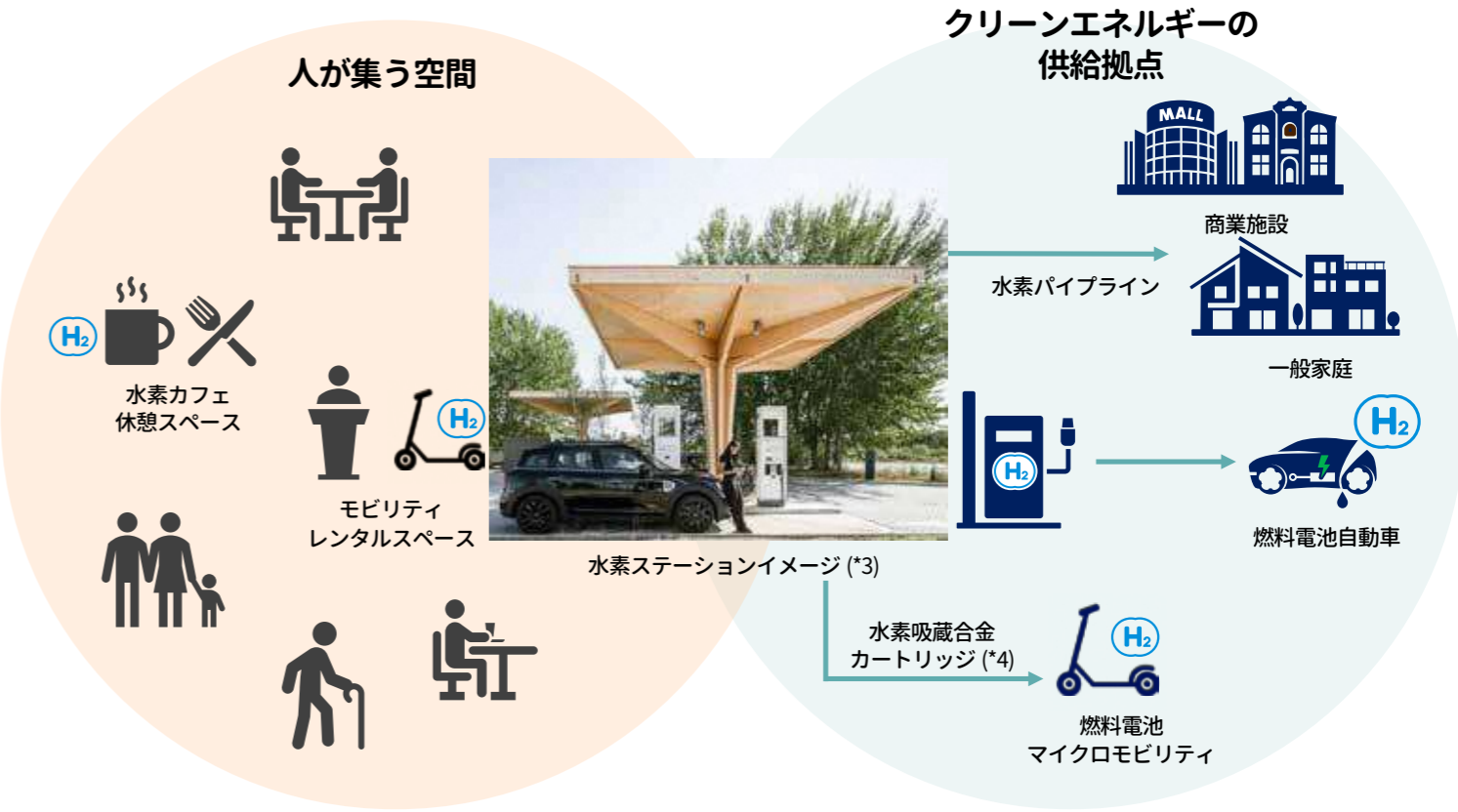
クリーンエネルギーと人のハブとしての水素ステーション

■ 水素利用イメージ

水素ステーションでは、燃料電池自動車 (*1) や燃料電池マイクロモビリティ (*2) 等に、水素を供給します。また、パイプラインなどで水素を運び、駅前エリア内の施設や設備（燃料電池）でも、水素を利用します。利用の際に、燃料電池から発生する熱エネルギーは、さまざまな用途として、効果的に活用していきます。

■ マルチ水素ステーション・コンセプト

エネルギー供給のハブでありながら、住民や観光客が気軽に立ち寄りたくなる空間を目指します。また、一部木材も活用した建築とすることで、周辺環境にも溶け込んだ新しい水素ステーションの形を生み出します。



*1&2：水素燃料電池によって発生した電気をエネルギー源として走る自動車やマイクロモビリティ

*3： 写真はデンマークの電気自動車向けステーション (Ultra-fast charging station in Knudshoved, Denmark)

*4： 着脱可能な水素を充填した小型の専用ボトル。定置式燃料電池やマイクロモビリティへの水素供給に活用

浪江ならではの自然の特徴や素材の活用

*アップサイクル：本来であれば捨てられてしまうような物に、デザインやアイデアといった新たな付加価値を持たせることで、別の新しい製品にアップグレードして生まれ変わらせること。

駅前から新町通りまで連続する緑空間に、山と海の両方の良さを持つ浪江町の特徴を活かします。また緑空間の舗装材には、震災で廃材となってしまった屋根瓦や大堀相馬焼をアップサイクル*して利用し、浪江町の記憶を継承します。

ストリートファニチャーや案内サイン、ポラードといった人の近くにある要素には可能な限り浪江産集成材や福島県産の木材を利用します。これまでの浪江の特徴や素材を最大限に活かして、これからの浪江につながります。



人が過ごし、人が集い、人がつながる

■駅前から新町通りまで

連続する緑空間を3つのゾーンに分けました。

- 「**過ごす**」 浪江に暮らす人、浪江を訪れた人が、ゆったりとした時を過ごします。
- 「**集う**」 移動式店舗が並ぶ広場と明るく居心地の良いテラスに人々が集います。
- 「**つなぐ**」 浪江駅周辺のにぎわいが新町通りへ、さらにその先へとつながります。

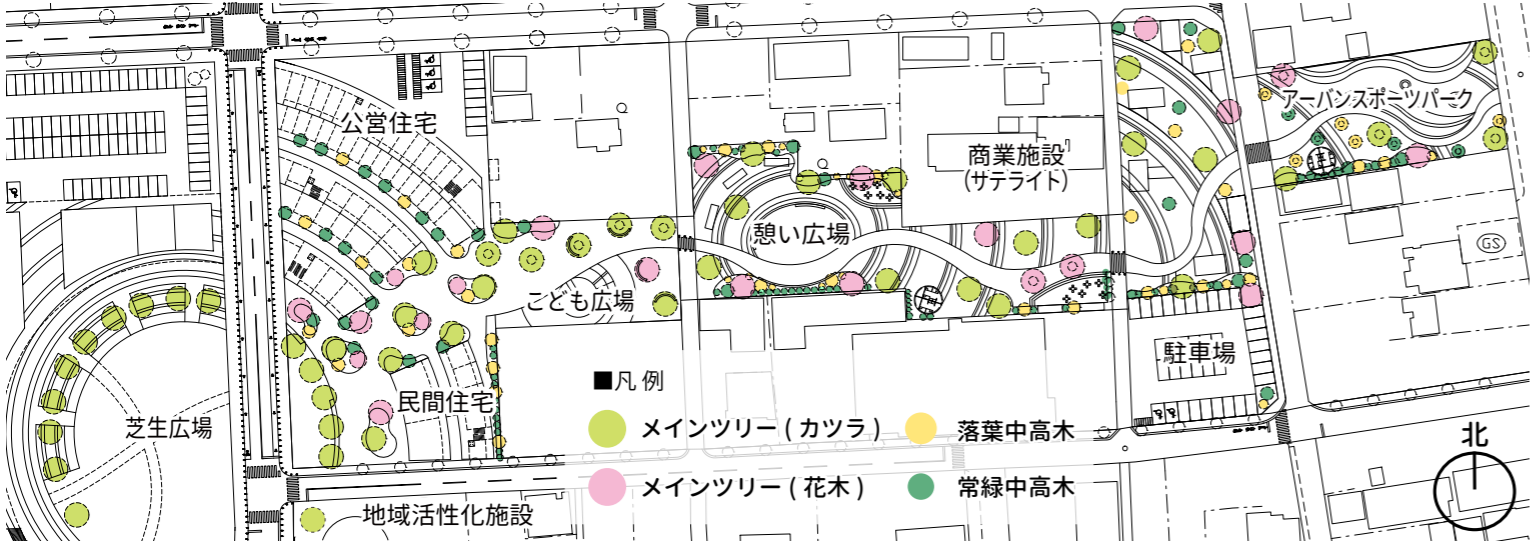


四季を彩り、木漏れ日をもたらす木々

彩りの変化で季節を感じる植栽計画

メインツリーの**カツラ**は、秋の黄葉と落ちた葉の甘い香りで、季節を感じることができます。カツラのほかに、花期、実期の異なる樹木を選定して、1年を通じて季節の移り変わりを楽しめる植栽計画としました。

落葉樹の合間に**常緑樹**を配して葉色のコントラストを楽しんだり、隣地との境界では目隠しの役割も担います。



●メインツリー：カツラ ●メインツリー（花木）



ソメイヨシノ
花期 3～4月



ジンダイアケボノ
花期 3～4月



モクレン
花期 3～4月



サルスベリ
花期 7～9月

●落葉中高木



モミジ



エゴノキ



ナンキンハゼ



ハナミズキ



リョウブ

●常緑中高木



ヤマモモ



ホソバタイサンボク



アカガシ



タブノキ



サザンカ

※本スケジュールは想定であり、今後変更となる可能性があります。



※民間住宅は、誘致に取り組んでおります。

← 浪江駅
NAMIIE STA.

→ 秋の遊び場
Autumn Park

← ふれあいげんきパーク
Fureai Genki Park

→ 水素ステーション
FH2R Station



バスのりば
BUS STOP

浪江駅周辺グランドデザイン基本計画
The Grand Design for Landscape Architecture around Namiie Station

概要版

2022（令和4）年3月発行
2022（令和4）年8月改訂
2025（令和7）年3月改訂

発行

福島県 浪江町

グランドデザイン

隈研吾建築都市設計事務所
伊東順二事務所
住友商事株式会社